



説教要旨「あなたにとっての救い主」

使徒言行録8章26～40節

ユダヤ教の理解では、神の恵みはユダヤ人以外の者が受けることはなく、またユダヤ人以外に神の救いにあずかることはありませんでした。ですから異邦人が神の救いに与るには、まず『割礼』を受けてユダヤ人となる必要がありました。しかし、ここに登場しているエチオピア人は宦官であるためユダヤ人となる為の条件である『割礼』を受けることができず、完全に神の恵みから締め出されている存在でした。それにも関わらず、はるばるエチオピアからエルサレム神殿に礼拝を捧げにやってくるほどに、彼は神の救いを求めていたのです。

このエチオピア人の宦官のもとに遣わされたフィリポは、彼にイエス・キリストの福音を告げ知らせました。そして、イエス様こそが救い主であることを受け入れ、信じた彼は、洗礼を受けました。それは、神の救いの計画が、これまでは受け入れられてこなかった人々、つまり異邦人や宦官にも神の救いの道が開かれていったということを意味します。

そもそも、神の恵みはユダヤ人だけのものではないという聖書の理解がそこにはありました。イスラエル民族の祖であるアブラハムは、世界の民が神の許に導かれ、招かれるための存在として祝福を受けました。アブラハムの子孫であるイスラエルは、神の恵みを独占するものではなくて、逆に神の恵みを世界へと広げていくための仲介者であり、彼らを通して世界の民へと神の救いが開かれ、広がっていくはずだったのです。しかし長い年月を重ねる中で神は神殿に閉じ込められ、神の恵みはユダヤ人に独占されるようになってしまいました。そして、そんなユダヤ人による神の独占を打ち砕き、異邦人であっても宦官であっても、すべての人が、同じ神を礼拝し、同じように神の恵みと救いにあずかる道を開かれたのがわたしたちの救い主なのです。

「自分には神の救いなど縁がない」「自分などゆるされるはずがない」そんなふうを感じている人たちに、イエス様の十字架による救いが、神の愛は、他の誰でもない、あなたに向けられているのだと、告げ知らせる歩みへと送りだされて参りましょう。

